

平成28年度総会議事録

開催場所	湖山西地区公民館 研修室					
開催日時	平成29年5月21日午後14時00分					
会員総数	19名					
出席会員数	14名	内訳	本人出席	5名	委任状提出	9名

1. 開会挨拶

スミス理事長により開会の挨拶があった。

2. 議長選出

会員谷尾洋介氏が議長に選出され、定款の規定により総会定数を満たしたので会が成立した旨を告げ、議案の審議に入った。

平成28年度事業報告

3. グリーンスポーツ鳥取の活動内容、行政関係

スミス理事長より以下の報告があった。

- ① 非営利事業ではグリーンフィールド横の第2・第3グラウンドに重機を入れて大掛かりな整備をおこなった。予算的には厳しくなったが、途中で中止するとそれまでの整備が無駄になるので続行した。
- ② 例年どおり、サッカー、ラグビー、ホッケーの地域密着型のクラブの活動の場を提供し、その活動を支えることができた。
- ③ 地域住民が企画するイベントの会場としての利用も完全に定着し、芝生に対する理解を全般に深める役割を果たした。例年のイベントに加え、グラウンドゴルフ大会、保育園の園外保育（遠足）等の利用も増えてきている。

グリーンフィールドの整備及び校庭・空き地の芝生化支援活動

中野理事欠席の為、スミス理事長より以下の報告があった。

- ④ グリーンフィールドは例年とほぼ同じ肥料と芝刈りで管理していた。第2については、重機を利用して不陸を修正、一部（1,000㎡）を砂地の芝生畑を造成した。第3については、重機を利用して不陸を修正すると共に、全面にティフトン苗を植付けした。

芝生化事業

- ⑤ 28年度も県内外の新規及び既存の芝生化事業に深く関わり、鳥取県や日本サッカー協会を初めとする全国多数の自治体や組織に対し継続的に「鳥取方式®」の芝生化に関する技術提供もできた。
- ⑥ 鳥取県内及び全国各地の保育園、幼稚園、小学校、公園、運動広場、空地の芝生化次長に対して、夫々の芝生化計画について最適の芝生の種類、散水設備（スプリンクラー配置）、年間維持管理マニュアルを提案・指導助言を行うと共に、サポートネットワークを通じての芝生化・維持管理に関する問合せに対して、それぞれ回答した。2016年1月～12月まで約60件
- ⑦ 鳥取県地域振興部スポーツ課「平成28年度鳥取方式®の芝生化推進事業」として東部は保育園1ヶ所、西部は保育園2ヶ所、東部の小学校1ヶ所、計4ヶ所の芝生化支援事業及び芝生維持管理・技術指導を

行なった。

- ⑧ 鳥取市都市整備部都市計画課「公園・広場芝生化実験：裸足で遊べる公園づくり」では 21 年から継続して芝生化をしており、28 年度は湖山池金沢公園を含め 7ヶ所 7,180 m²芝生化された。
- ⑨ 日本サッカー協会「JFA グリーンプロジェクト」として、場所の選定・指導を行っている。全国 31 箇所の保育園・幼稚園・小学校やグラウンドにポット苗（合計 168,826 m²）が寄贈された。全国各地の芝生化事業の状況としては、愛知県西尾市では（保育園 9 園・小学校 1 校）、滋賀県近江八幡市（保育園 2 園・小学校 1 校）、滋賀県東近江八幡市（保育園 4 園）、岐阜県立岐阜工業高等学校、大阪工業大学ラグビー場など行った。
- ⑩ その他一般社団法人 日本植木協会からの執筆依頼「全国の校庭と遊び場の芝生化を目指す鳥取方式®」緑化通信 2016 年 4 月 26 日発行。
- ⑪ 鳥取県立学校芝生維持管理経費の実態調査（17 校：3 年間）。
- ⑫ 「鳥取方式®による校庭芝生維持管理の実践」日本芝草学会秋季大会 ポスター発表（2016 年 5 月 29 日発表）。
- ⑬ 滋賀県近江八幡市小学校の体力測定結果データの収集と解析（芝生化校 5 校、非芝生化校 5 校：3 年間）「校庭芝生化が児童の体力と障害予防に及ぼす効果の実態」日本芝草学会秋季大会（2016 年 5 月 29 日発表）
- ⑭ 鳥取市千代川河川敷（西品治付近）を「自然型芝生化」の実証実験として、兩岸 80,000 m²の河川敷を月 2 回の芝刈りで芝生広場を維持管理した。

E A S E フットボールクラブ

田中理事欠席の為ニール理事長より下記の報告があった。

28 年度クルセール Jr が途中休部となった。理由として、指導者不足のため県外遠征時など難しくなった為。その他のパルチーダ、ヴァモス、ヴィオレ女子、フットサル・ミストウーラは例年どおり安定した成績を残している。

湖山ラグビーフットボールクラブ

岩下さんより以下の報告があった。

- ① 活動期間は 9 月～翌年 4 月となっている。練習は木曜日 19:00～、日曜日 15:00～で行われ、参加メンバーは 10 人前後で行われた。28 年度は鳥取大学の学生だけでなく、鳥取西高校のラグビー部（部員 4 名と教員 1 名）と合同練習を行う事ができ、人数をできるだけ増やし、楽しい練習を行う事ができた。KRFC としての試合は毎年恒例の KRFC 杯（鳥大戦）と YCAC 戦（横浜）の 2 試合だけとなった。練習から人数がそろわないことがほとんどであり、試合の設定が難しい状況が続いている。しかし、他のチームの試合にも声をかけてもらい参加するなどして、ラグビーを楽しむ機会を増やしている。
- ② ジュニアの活動については、少ないながらも参加者が微増している（現在 8 人くらい）。練習については週 1 回日曜日 14:30～、小学生のうちは強いコンタクトプレーは避けて、タグラグビーを取り入れるなどまずラグビーの楽しさ、ボールを持って自由に走る楽しさを実感してもらえるような取り組みを引き続き行った。これまでは自分たちの子供を連れてほそぼそと活動していたが、少しずつ人数が増えていく状況といえる。大会について今回は、倉吉のスクールと編成チームを組んで試合に参加した。
- ③ 普及活動としては県主催のわかとりっこ育成事業に参加し、布勢体育館で行われたスポーツイベントにおいて 100 人程度の子供たちにラグビーに触れてもらう事ができた。

エレンシア湖山ホッケークラブ

矢信さんより以下の報告があった。

- ① メンバー大人 9 名、子供 3 名で活動している。毎週土曜日 15 時～17 時グリーンフィールドで練習を行なった。大会としては、9 月-「第 30 回鳥取県ホッケー選手権大会」、12 月-「鳥取県わくわくホッケーフェスティバル」これは子どもたちと触れ合為の大会、1 月-「鳥取インドアわくわくホッケーフェスティバル」等試合に参加した。
- ② 2016 年 7 月 31 日グリーンフィールド第 2 グランドの芝苗移植に参加した。
- ③ 2016 年インターハイ 2 名役員参加した。

4. 決算報告

事務局太田より、平成 28 年度の決算報告があった。

28 年度は赤字決算だったと報告があった。スミス理事長より「グリーンフィールド第 2・第 3 グランド整備費、また 10 年以上行っている千代川河川敷の芝を週 2 回刈る自然芝生化が以前は 20,000 m²だったのを 28 年度は 80,000 m²行ったなどの費用増が決算を圧迫したが、29 年度は大幅な整地工事を行わないし、河川敷は国交省の GST に対する態度が変化したことにより、この事業を終了させたので 29 年度の決算が正常に戻る予定」との説明があった。

5. 会計監査報告

法人監査井上氏欠席の為代理人としてスミス理事長より「諸帳簿及び証拠書類を監査した結果、適切かつ正確に処理されていることを認める」との報告があった。

6. 質疑応答・承認

千代川河川敷について、理解と費用を出さないのは国土交通省自体の問題なのか国土交通省の担当者の問題ですかとの質問があり、28 年度高等学校女子サッカークラブ練習や警察犬の訓練に利用され、利用価値が証明されていても理解を示さない国土交通省自体の問題だと認識しているとスミス理事長より回答があった。

その他質問及び異議もなく、28 年度の事業報告ならびに決算報告及び監査報告が、満場一致により承認された。

平成 29 年度事業計画案

1. 芝生化支援事業の見直し等

- ① 今までの方針を継続して、当法人の目的である地域密着型スポーツクラブの育成及び地域樹民の生活の中の「芝生の広場」の利用を通じての町づくり促進や青少年の健全育成のため、芝生広場を維持管理すること。また、グリーンフィールドで実施している「鳥取方式[®]による芝生化」を鳥取県内外の自治体、日本サッカー協会を含む競技団体やスポーツクラブに対して空地、公園、保育園の園庭、スポーツグラウンドの芝生化の支援活動を通じて、「鳥取方式[®]」の正しい普及に努めること。
- ② 鳥取市都市環境課「公園・広場芝生化実験：裸足で遊べる公園づくり」として、美保ゲートボール場など 9 箇所（10,800 m²）行う予定。
- ③ 日本サッカー協会「JFA グリーンプロジェクト」全国の保育園、小学校、グラウンド等 35 ヶ所（109,021 m²）ポット苗を寄贈予定。
- ④ 人々の憩いの場として有効利用を思っただけで無償でやってきた事であるが、国土交通省は全く理解を示さず費用を出す意向も見せないため、29 年からは行わない事にした。29 年度はグリーンフィールド第 2・第 3 グランド整備もほぼ終り、千代川河川敷の芝刈りも行わないので 29 年度は、見直しは明るいとの

説明があった。

- ③ 鳥取県地域振興部スポーツ課の鳥取方式の芝生化促進事業（保育所・幼稚園・小学校の園庭芝生化事業）について要望のある保育園・幼稚園・小学校の芝生化を29年度も行う。29年度は保育園を4園、小学校1校行なう。
2. グリーンフィールドの維持管理については、第1は例年とほぼ同一の管理、第2は砂地の芝生畑（1,000㎡）を切り芝収穫可能な状態とするとともに、サッカー場として利用予定の部分は十分な施肥・芝刈りを実施し、ターフの充実を図る。第3は6月より植付けたティフトン苗に十分な肥料を施すとともに、芝刈り回数も増やしてティフトンの被覆を促進する。
3. EASEフットボールクラブ
サッカーにおいては、県内外のチームと交流試合、県外遠征等積極的に活動する。多くの県内外のチームと交流する。フットサルにおいてはミストウーラ主催のリーグ戦を開催する。「U-12女子練習」を月1~2回程度開催する。小学生（U-12）から中学生（U-15）・高校生（U-18）で活躍できる選手を育成する。参加選手は女子4年生~6年生で東部地区・中部地区で活躍している他のチームからも選手を招集して行う。し
4. 湖山ラグビーフットボールクラブ
29年度の予定として、練習と試合については昨年度と同様に活動する予定ある。また普及活動にも取り組み、KRFCの存在と活動を継続してPRしていきたいと考えている。
5. エレンシア湖山ホッケークラブ
試合を目標とした練習ではなく、普段の練習を楽しむことを重視していく。最近、高校生メンバーが3名となり、また若い世代のゲスト参加も増えている。岡山の同じようなチームや桜ヶ丘中学と交流試合を予定している。
6. 自治会との連携
湖山西地区運動会の為スミス理事長より、毎年恒例のグリーンフィールドでの納涼祭は7月22日（土）雨天の場合は翌23日（日）に行う。その前に6月18日（日）グリーンフィールドの側溝掃除を行うので、スポーツクラブ等総会の参加者に協力の依頼があった。
7. 28年度の予算案
決算同様に平成29年度の予算案が非営利活動・収益事業別に提出された。
8. 質疑応答・承認
NPO法人は県の補助金制度を利用する予定はないかと質問があった。それに対し、グリーンフィールドの維持管理は非営利なので、県に口出しをされたくないのを受けつつもりはないとの回答があった。その他の質問及び異議はなく、満場一致により承認された。
9. 議事録署名人
議長は、出席している会員の中から議事録署名人を指名したい旨を述べ、これを議場に諮ったところ、満場一致で、次の者を議事録署名人に指名した。
- | | |
|----|---------|
| 会員 | ニール スミス |
| 会員 | 中野 淳一 |

以上で本日の議事を終了し、議長は午後2時55分に閉会を宣した。

10. 議長解任

決議事項等が終了した為、議長が解任された。

11. その他

- ① 鳥取方式®の芝生化全国サポートネットワークの水野さんより、9月24日芝生化アカデミーを行う。芝生化をこれからやる方、やっている方を集めて、芝生の勉強会等を行う。今年は芝生の上で野球教室を行う。場所は遷番小学校の校庭で、宮本慎也選手を招く。野球の指導者の認識を帰るため、説得力のある宮本選手に依頼をかけた。
- ② 米子市は前市長が園庭（校）の芝生化について理解がなかったが今年市長が変わったので、理事長、中野理事及び増本理事3人で挨拶を兼ねて訪問したいと思っている。
- ③ 鳥取市教育長も変わりましたので、夏場に谷尾理事、中野理事、サポートネットワークの水野会長と挨拶を兼ねて訪問したいと思っている。

閉会の挨拶

スミス理事長より、厳しい年度ではありましたが、決して事業が悪かったわけではない。事業については、例年どおり行われた。鳥取市教育委員会は「鳥取方式®」を取り入れないが鳥取市の小学校は県の補助金を受けているが維持管理が市の負担となっておる。新しい教育長に支援制度の改善を含めて、これからは強引ではなく、しつこく説得していきたいと思っている。

との挨拶で、総会を閉会した。

平成 28 年 5 月 21 日

特定非営利活動法人グリーンスポーツ鳥取年次総会において

議 長

谷尾洋介



会 員

スミス



会 員

池田実央

